

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2895200083		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき神戸玉津		
所在地	兵庫県神戸市西区二ツ屋2-15-6		
自己評価作成日	平成27年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成27年11月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年から実施しています家族会ですが運営推進会議ではなかなか時間の都合がつかず参加出来ない方も、家族会へは多く参加して頂けています。食事を入居者様と一緒に食べる時間も外食では動きもあり大変ですが、ゆっくり食べて頂けるのも好評の理由です。食後に家族様との意見・要望をしっかりと伺う場所にもなっており今後も継続させていただきます。地域の方との協力が年々向上してきており、納涼祭や秋祭り、季節行事にも多くのボランティアさんが施設に来て頂け目標としている開放された居心地の良い環境になっていると感じます。お元氣な入居者様も多く、活動の幅も広がってきており、外出の頻度も増えてきていますが、やはり施設の前の公共公園の活用出来ている事が強みです。草木を通して季節の変化を楽しんでいます。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

①方針に基づく運営・事業所テーマ「笑顔あふれる暮らし」を実現するため、家族・地域の協力も頂きながら入居者個々人にとって思い思いの日常となるよう職員一同ベクトルを合わせ取り組んでいる。②楽しみごとの多い暮らし・地域の方と行うゲートボール、調理から片付けまでを職員と一緒にランチレク(親子丼、お好み焼き、餃子、ハンバーグ、ぶっかけうどん、いなり寿司等)、家族との事業所内昼食会、近隣園児とのふれあい(ひな祭り・七夕・敬老会・クリスマス会等)、カラオケやボランティアによるサックス演奏やタヒチダンス、そうめん流しやBBQ等のイベント食、地域・家族も参加する納涼祭、家族と一緒に的外出行事(ドライブ、遠足等)③開かれた事業所・地域「介護リフレッシュ教室」の会場として交流室を提供、近隣の子供たちへの施設開放、近隣小学校での認知症講座の開催、トライやるウィークを受入れ等、地域に開かれた事業所となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「笑みがこぼれる家庭(入居者の家庭・ほおずきでの家庭・職員の家庭)・・・それが私のほこりです」であり、理念の唱和を毎日申し送り時に行う事で、意識付けすると共に理解を深めている。また施設独自のテーマ「笑顔あふれる暮らし」についても方針として、唱和しています。	法人理念「笑みがこぼれる家庭・・・それが私のほこりです」を縦軸に、事業所テーマ「笑顔あふれる暮らし」を横軸にし、入居者個々人が望む楽しい暮らしとなるよう職員が一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年夏祭りは地元自治会全面協力して頂き、自治会20名以上参加されています。また近所の保育園児との交流を定期的(年4回)に実施し、向かいの公園の掃除(毎月1回)や秋祭りにも毎年参加しています、近所的美容院も継続して利用交流しています。	日々の散歩時や買い物時での近隣の方々との交流、地域行事及び事業所行事の双方向での参加・見学、ボランティアの協力、地域清掃、地域への事業所会議室の開放等、暮らしの中に地域が根付いている。	今後も、地域の方々の協力の下、地域における社会資源の一つとしての積極的な活動の継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会・民生委員の方へ事業所の取り組みや状況を報告している。また認知症キャラバンメイトの活動も事業所内で実施しており、対象を今期は活動の幅を広げ小学生等にも実施しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生委員・「レラティブ別府」管理者様から助言を頂き、助言をもらっています。またご家族に参加して頂き毎回意見を頂いている。事故・活動報告や話し合いの場を作っているが、毎回2～3名の家族参加なので、不参加の家族様へは議事録を送付し意見を確認している。	会議には入居者・家族も相当数参加しており、他の出席者に対しても、より実態としての事業所情報が提供されている。また、安全面・衛生面、行事、在宅介護の現状、看取りについて等、多岐に亘り意見交換等が行われており、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの集団指導・随時の指導にも出席しており、情報の共有を実施している。西区GH連絡会にも参加して他事業所との情報共有や入居者様の待機情報等の意見交換を定期的を実施しています。	市の職員とは情報の共有・課題の相談等で連携を密にしている。地域包括支援センターとは「介護リフレッシュ教室」の会場提供でも連携している。また、区のGH連絡会にも出席し情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の規定で定められた、年に2回社内研修は全職員身体拘束防止研修実施しています。また神戸市へも研修報告が義務付けられているので報告済みです。研修内容は会社のマニュアルや厚労省の推奨資料を活用しています。	本社主導の基礎研修及び事業所内での研修・勉強会や事例検討で「身体拘束の弊害」を継続的に学んでいる。また、入居者の行動を制止することが無いように日常から「言葉かけ」に留意しながら支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神戸市主催の高齢者虐待集団指導に管理者参加し職員へは情報共有を図っています。またその内容を基に、全職員へ虐待についてグループワークや時事的なニュースを含め、虐待に対する研修・情報共有を実施しています。	本社及び事業所内での研修・勉強会並びに日常支援の振り返りを通じて「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。管理者は職員が孤立化しないようコミュニケーションにも充分配慮している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内へは、成年後見制度のパンフレットを置いて自由に取ってもらっている。パンフレットを用いて後見制度についての研修も計画している。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられないが、認知症高齢者に対しての制度活用の有用性は研修を通じて共有できており、状況に応じて家族等への提案も行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	記載内容を説明した上で契約を交わしている。また、重要事項説明し理解納得してもらった上で契約書にもサイン頂いている。契約内容に関しては、初回のみでなく不明点に関しては、問い合わせがあった時は、その都度家族様へは再度説明している。	事業所見学・質疑応答・アセスメントの実施により、事業所の現況及び入居後の生活のイメージを描いて頂き、契約を締結している。重度化・終末期への対応方針も説明し理解いただいている。	契約時や入所後に良く受ける質問等の項目を集め、「Q&A集」を作成してみたいかかでしょう。職員研修にも活用ができる事と思います。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度の面会訪問時や運営推進会議の実施により、意見を聞けるように努めている。改善内容に関しては都度職員内会議で情報共有し日々の関わりの中で改善している。昨年度より年に2回の頻度で家族会開催しており、より多くの家族様からの意見を頂く場を設けている。	運営推進会議、家族懇親会、行事参加時、来訪時、WEB・電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。「職員との係わり強化」の希望があり、即時に実践している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内の全職員の情報共有の場として、毎月一回パートナー会議で運営についての話し合いの場を設けており、今後も継続しています。また、その内容を議事録にて運営者へ都度報告しています。	業務に関しては各係りが施策を立案し、月例会議にて検討・実施の流れが出来ている(全職員の意見等の反映)。また、管理者との個別面談(マイチャレンジ制度)や本部職員との面談の機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日報という形で報告しており状況は毎日代表へ伝えている。運営規定等は、事務所に設置いつでも確認が出来るようにしている。給与水準に関しては定期の人事考課を実施し代表へ報告しています。職員へはキャリアアップ研修を定期的実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で、毎月勉強会を開いている。管理者は、毎月会議及び研修で質の向上につながる研修を行い、管理者・中堅職員・新人職員へとキャリアに合わせた研修を定期的実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のGH連絡会に参加努力している。玉津町内のグループホーム・小規模多機能型の施設との連絡会に参加している。運営推進会議時に他法人からも定期的に訪問してもらい、助言や指摘をもらっている。最近では、お互いの実施状況の共有の場になっています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほおずきにて安心して暮らして行ける様に、事前の情報をご家族様・本人様より聞き取り生活歴や仕事歴、入居に至る経緯等を職員間で共有し関りを多く持ち新生活に慣れられる様に進めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の説明、ご家族様希望等も理解出来るように努めている。面会時にも近況状況や報告を当日の職員から報告させてもらっています。また、職員紹介ボードを活用し職員の顔や名前を覚えてもらえるように継続します。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントや状態・ニーズに合わせて職員間の話し合い等で必要なケア内容の選定に努めています。今期は他サービスを使った実績がありませんでした。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との信頼関係を築き出来ない事を助ける支えあえるように声かけをしながら対応しています。本人が出来る事を生活の中に取り込み共に行う様に支援をする。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所の年間定期行事には全家族様へ呼びかけを実施し、参加機会が増えるように支援しています。また、月末の報告書と共にお便りを同封し、視覚的にも状況・様子が分かるようにしています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人様からの要望を実現出来るように努め、馴染みの関係が途切れないように支援している。来訪された時は居室内でゆっくり話をして頂く時間を設けたり、またいつでも来てくださるとお伝えする。またその際にもどのように生活を送られたいたかを確認しケアに反映させる。	家族との外出(買い物、食事等)・外泊(GW、盆、正月等)や友人・知人の訪問や電話での会話、馴染みの美容院の利用等、入居前の生活感ができるだけ長く継続するように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の会話の間に職員が入る等行い利用者様同士が交流がスムーズに行える様に支援している。お一人で過ごされる方がいれば、施設の行事への取り組み参加促したり、色々な話題を提供し孤立しないような配慮を心掛ける。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先の特養・病院窓口の方へは定期的に状況確認求めている。また、退居された方の家族様から定期的かつ、良好な関係が気付かれるように、管理者が窓口になり退去後の相談等にも話してもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉では話されなくても会話の端々に希望や意向がないか模索している。入院・退院が多かったが、帰園前に状態や希望に合わせたまた入居前にも自分自身の思いや希望を伺っているので、遂行出来るように努めている。	入居者との日々の係わり(一対一での会話や言動、仕草・表情等の読み取り)の中から、ご本人の望む暮らしとなるよう思い・意向を汲み取っている。個人個人の想いは、送り・連絡ノート等により全職員が共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供表やサマリーを確認し、ご家族やご本人からの聞き取り入居前の生活の様子等記入して頂ける。またフェイスシートの内容の把握や家族様からのより具体的なお話の内容を都度傾聴しています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態や職員間での情報や申し送り関係を各ユニット職員間で共有・確認するように徹底している。一人一人に合った過ごし方個別ケアが出来る様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを毎月実施しています。各ユニット会議にてプランに関するモニタリングを実施しています。昨年度より実施しましたモニタリングに家族様の意見を聞きやすいように専用の用紙を事前に送付し、カンファレンスに本人・家族様参加多くして頂きました。	入居者の思い・意向、家族の要望に、市パートナー(職員)・医療従事者の意見を踏まえ、ご本人の現況にマッチした有用性の高い介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス・モニタリングにより支援計画の見直しに繋げている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほおずき統一の書式を使用継続している。個別記録や体調管理表を分け記入している。内容に関しては、職員間で情報共有がし易い環境になっている。定期的な見直し以外にも、退院時のレベル低下やニーズ変化時には退院前には状態に合わせたプラン作成を実施している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの入居場所や部屋に左右されず、一人一人の希望に添えるようなケアを心掛けている。合同の交流機会を設けたり、レクリエーションを強く希望される方はデイサービス利用者様共交流したりしています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今期もわらべ保育園との交流会を4度実施しています。また近隣の地域センターを活用した喫茶サービスの利用や家族様のあんしんすこやかセンター開催の介護リフレッシュ教室にも参加実績があります。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム主治医へ往診、定期的に往診及び、緊急時には、休診日や夜間にかかわらず、FAX・電話相談を受けられるように協力を頂いている。窓口は連携看護師及び管理者としている。事故等の対応についても、主事医に指示を仰いでいる。今期も専門医への多数医療機関へ紹介実績あります。	協力医(内科)による往診(隔週)及び急変時の対応(24Hオンコール体制)により健康管理を実施している。入居前からのかかりつけ医への受診は家族と協同している。希望者には歯科往診やPT・OT等の訪問も受けている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算で看護師が主治医・医療機関と連携を取っている。連携看護師が不在の時もあるので、緊急の場合は相談や医療行為へのデイスサービス看護師へ応援を頼むことがある。またターミナル期の方もおられいつでも訪問看護師との連携が可能になるように準備はしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は入院が3件と多かった。基本入院者が出た場合は早期退院に向けて、SWや看護師・医師と相談しながら退院後のケアに向けて話し合いの場を設けてもらうようにし、退院前時のカンファレンスや病院訪問にて情報収集し、その情報を基にユニット会議でプラン作成を実施する。	入院中は入居者の不安感を軽減するため面会している。病院とは早期退院を前提に連携し、家族とも情報を共有している。退院時には情報を入手し、予後に不具合が生じないよう図っている(プランの変更等)。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修を実施している。またご家族様にも家族会や運営推進会議等に説明し理解を深めてもらえるようにしている。重度化が進めば、1人1人状況に応じて主治医に相談し、ご家族、スタッフのカンファレンスなどを何度も行い、今後どうするか話し合いをして決めるように心掛けている。	重度化・終末期の状況が生じた場合には、ご本人にとって望ましい支援・「生」となるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所)で相談・検討し進めている。この一年では、お一人を看取らせて頂いた。	職員の看取り支援の技術向上に活かさせて頂けるよう、支援内容をホーム内の職員間で共有・検証・検討する仕組みの継続に期待をしています。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほおずきのマニュアルを全員周知している。また定期的に緊急対応については勉強会を実施している。マニュアルは1・2F共にすぐに見れる事務所に配備している。ほおずき本社からの情報や神戸市等からの最新の情報を伝えるように徹底している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほおずきの避難マニュアルを全員周知している。火災に関しては、2回避難訓練を実施し、消防訓練として、消防署通報訓練(日中・夜間)実施している。	年2回の通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防署立会いあり)。有事には、消防団・自治会等の協力が得られる体制が整備されており、非常食・飲料水等は2週間分備蓄されている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自施設でのプライバシーに関する勉強会も定期的に行っています。排泄に関する問題点・改善点は都度スタッフで話し合い自立に向けた支援が出来るように努めている。今期からは全スタッフに研修にてプライバシー確保の大切さを考える時間を持たせる研修を実施している。	入居者の現況及び自尊心・羞恥心へは充分配慮(同性介助等)し、個々人の尊厳を保持した支援・対応を心がけている。今まで培ってこられた事柄(技能・習慣・趣味等)も日々の暮らしの中で実践できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にその日の服を決めてもらったり、出来る範囲の自己決定はしてもらえるように配慮している。職員間も業務を調整したり職員の配置を工夫して、入居者様が自己決定出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は全員が活動的に動きたいと希望されていない方の中にはおられ、ゆっくり過ごしたいという方へはその方のペースに合わせて過ごして頂いている。気候等でも暮らしが変化するので、柔軟に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時から、洗顔・髪とかす・季節に応じた服を自分で選んで頂ける様に職員から毎日声かけを実施している。毎日お化粧をされる方はいなくなりましたが、外出時等には家族様と一緒に化粧が出来るように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチレクにはほぼ全員が参加されている。今期からは食事のみではなく、おやつ作りの「ぼた餅」作りもしている。入居者様が楽しく食事をして頂けるように、なるべくその方の好みに合わせた食事を考え提供し、食後のかたづけ等は当番制にし入居者様を中心になって行って頂いている。	全食手作りの「食」を提供し、献立・下拵え・洗い物等、職員と一緒に会話をしながら取組んでいる。外食や手作りおやつも楽しみごととなっている。事業所内での家族会(家族と一緒にの昼食会)も開催している。	家族会に組み込まれた工夫(家族と一緒にのランチ会)、「食」を通じての家族様との「和」を今後も継続願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何名かの方へは食事量が低下していきいている方がおられ、医師からの処方でエンシュア(高カロリー食)を提供し栄養補給に努めたり、全員に水分摂取の管理表を各個人で記録している。水分摂取が少なければ摂取促している。毎日食べて飽きが出ないようにメニューも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方以外へは声かけ実施し口腔内の清潔保持には気をつけてケアしています。また協力医のなでしこ歯科の定期往診も希望の方は口腔ケア定期的に実施しています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせてトイレへの誘導を実施し個別に24H排泄記録している。日中・夜間共に定期的なトイレ誘導実施し習慣を作り、それでも排泄がない時は時間を長めに設定したり、下剤ではなく飲食物で調整を図ったりしています。また状態に合わせて排泄をして頂く様に工夫もしています。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインの把握並びにプライバシーへの配慮も含め、トイレでの排泄が行えるよう支援している。夜間帯も利用者に合った支援をしている(ポータブルトイレ利用・おむつ交換等)。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や腹部マッサージや日中の活動量を増やす様に支援したりし自然排便が出来る支援を心掛けている。食事に関してはききな牛乳等の飲用で排便を促したりしています。それでも困難な方へは、主治医や看護師と相談し、施設管理にて下剤にて排便コントロール実施しています。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間に関してはある程度幅を持たせているが、日中のみとしている。また、入浴希望があった場合や拒否があった場合はその都度対応している。体調不良や一般浴困難な方へは清拭対応等の細かなケアも実施するように努めている。同姓介助徹底しており、シフトで難しい時は職員の調整を図っている。	週2~3回の入浴を基本とし、ご本人の状況を踏まえながらゆっくりゆったりとした入浴時間となるよう支援をしている。職員との1対1での会話を楽しんだり、好みの入浴剤や季節湯(ゆず湯等)も喜んでおられる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢で傾眠が強い方にはメリハリを持って頂き為に日中数時間の居室で休んでもらえるように配慮している。また個別には、布団の調整・日光浴や外気浴等日中の活動量を多く持てるようにしており、夜間の安眠に繋がるように支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	モレや抜けがない様に複数の職員で服薬準備や確認を毎食後確実に実施している。また、内服変更や臨時薬等も協力薬局から、変更・追加があった場合は連絡があり、その内容を職員間ですぐに共有している。服用薬に関しては、各個人ケースにていつでも確認が出来るようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や洗濯たみを実施したり、食後のテーブル拭きや食器の片づけ等、個々の能力に合わせて行って頂き、それぞれの役割や出来ることへの楽しみを持って頂く様に配慮している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑があり水やりを定期的実施したり、天気の良い日は公園を散歩したりして楽しみの幅を持たせている。掃除や調理や溝掃除等も幅広く現在実施出来ているが、中には部屋で決まった時間は時代劇等を観たいと希望される方には、そのようにして頂く。家族様と毎週外食・外泊を楽しまれる方も中にはおられます。	玄関前の公園での日光浴や散歩、庭園の草花・野菜への水遣り等、日常から外気に触れる機会を意識して支援している。近隣の方とゲートボールを楽しむ方もおられる。季節の花見や遠足等には家族も参加し楽しい時間が持たれている。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察しますが、今後も今迄同様に「利用者の思いに沿った支援」の継続に期待をしています。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理でお金を所持する方は2名おられ買い物等で使いたいときにはご家族の了解を得、入居者様の希望に応じ購入している。買物に行く時は職員がついていき、支払うときはできる方にはして頂いて、職員が見守りしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話は自由に掛けてもらっている。1名は携帯電話を持っており、家族様限定で自由に連絡がとれる人もいる。手紙に関しては、家族様へお手紙や年賀状を書きたいと希望があった場合は、提供し自分で書いてもらえるように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙や掲示物・植木・花などへの配慮している。また毎日の掃除等に換気や清掃を行い、居心地の良い環境作りを心掛けている。またテラスやエントランスにても過ごせるように椅子やソファを配置している。	季節の移ろいを感じれる庭園の流木や草花、ゆったりとした玄関口(季節飾りも設置)、憩いの時間となる休憩スペース(季節に応じてアレンジ:冬場は畳敷きにしての炬燵設置)、笑顔いっぱいの行事写真が貼付されている壁面等、心地よい日々となる共用空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者で雑誌や新聞の見出しから話し合ったりしている。施設の行事や日常の写真をアルバムでまとめたり、掲示したりし誰でも会話が弾み、入居者様同士で会話が弾むように支援している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具や家族の写真等を持ち込みを勧めている。今期はお孫さんやひ孫さんの絵や写真を壁に掲示される方もおられました。また使い慣れた日用品も持参して頂ける方が増えてきており、施設の考えが浸透してきていると判断しています。今後も家族様の協力を得られるように配慮していく。	使い慣れた馴染みの者や大切なもの(ソファ・椅子、仏壇・位牌、家族写真等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。洗面台が設置され衛生的であり、ADLの変化へも家族と相談しながら対応している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自で時間確認の為にピンギや居室へは時計を設置したり、入居者様が使い易いように杖置きを椅子に設置したり、危険が高い方へは肘置き用椅子を使って頂いたり配慮しています。夜間でも場所が確認出来る様に表記したり、職員誘導ではなく自分でして頂けるようし支援している。		